

第1部 緑の基本計画編

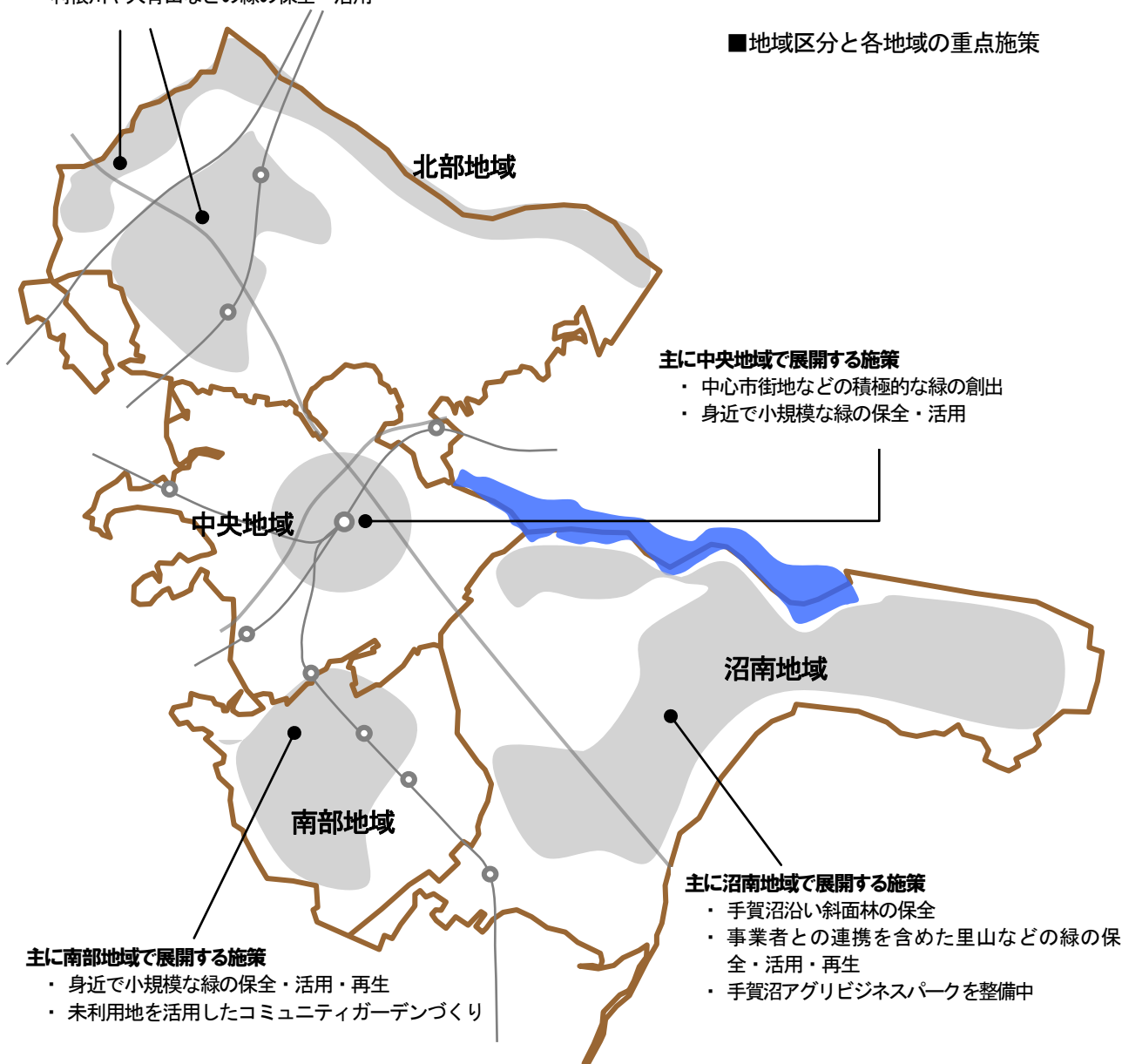
第3章

緑の地域別構想

1. 北部地域	100
2. 中央地域	102
3. 南部地域	104
4. 沼南地域	106

主に北部地域で展開する施策

- ・ 省CO₂に配慮した柏の葉地域の先進的な緑づくり
- ・ 利根川や大青田などの緑の保全・活用



1. 北部地域

□地域の緑の現況

- ・ 利根川と周辺の農地・斜面林、利根運河が大きな骨格の緑を形成しています。
- ・ 利根運河周辺には、大青田の樹林地や湿地があり、貴重な自然環境を形成しているほか、その南側や花野井・布施一帯は、雑木林・屋敷林や農地がまとまった区域となっています。
- ・ 柏の葉公園周辺やつくばエクスプレスの沿線開発に伴い、新しい街並みが形成されるとともに、新たな試みによるまちづくりを進めています。
- ・ 柏の葉や柏ビレジ、松葉町では緑豊かな街並みが形成されている一方、工業団地では緑は少ない状況です。
- ・ 主な公園緑地として、拠点の緑として位置づけられている柏の葉公園、こんぶくろ池、あけぼの山公園・あけぼの山農業公園、柏ビレジ水辺公園などがあります。
- ・ 利根川や利根運河の堤防には、サイクリングロードが整備されています。

都市公園 1人当たり面積 (H20.3)	9.27㎡	市全体 5.53㎡ (→P29 参照)
都市公園 1人当たり面積 (H31.3)	9.54㎡	市全体 5.90㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H20.3)	13.59㎡	市全体 7.80㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H31.3)	14.33㎡	市全体 8.47㎡ (→P29 参照)

□地域の緑の課題

- 利根川の保全・活用や大青田の森一帯の保全・活用
- つくばエクスプレス沿線開発に伴う緑の整備・創出
- 住宅地などの市街地の緑の育成
- 工業団地などの緑の創出

□地域の緑の将来像

貴重な緑の財産を活かしたまちづくり

□地域の緑の取り組み

●地域の財産となる緑の保全・活用・再生

地域の貴重な緑の財産である利根川、利根運河を中心とした緑を保全配慮地区として保全・活用するとともに、再生に努めます。

- ・ 利根川・利根運河沿いの樹林地や湿地などを財産として保全するとともに、それを活かしたレクリエーションの空間づくりに努めます。
- ・ 生態系に配慮した大青田の森拠点づくりや、土地所有者の協力による身近な里山づくり、環境学習の場などとして活用を進めます。
- ・ 農地の保全・活用に努めます。
- ・ 旧吉田家住宅やこんぶくろ池などの拠点の緑づくりを進めます。
- ・ 地域の緑を活かし、自然を体験できるネットワークづくりを検討します。
- ・ 社寺林の保全に努めます。

●調和のとれた新しい緑のまちづくり

緑化推進重点地区である柏北部中央地区・柏北部東地区を中心として、環境に配慮した緑づくりによって、新たな環境共生のモデルとして内外に発信するキャンパスタウンづくりを推進します。

- ・ つくばエクスプレス沿線において環境負荷低減に配慮した開発事業を推進し、緑の保全・創出・育成を進めます。
- ・ モデルとなる学校、公園、道路などの公共施設の緑化推進に努めます。
- ・ 柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅前において、周辺施設や駅前広場のシンボリックな緑づくりを進めます。
- ・ 多目的利用に利用できる調整池の整備を進めます。

●つながりのある緑の街並みづくり

緑の道のネットワークづくりや街並みの緑づくりに努めます。

- ・ 地金堀と周辺の緑の保全し、新たな緑の創出によるネットワークづくりに努めます。
- ・ 道路と一体となった緑豊かな住宅地の街並みづくりへの誘導に努めます。
- ・ 東京大学、千葉大学など大規模な敷地を持つ大学、事業所などの緑の保全に努めるとともに、地域の緑としての活用や支援策を検討します。
- ・ 北柏駅前において、市民などとの協働による緑を活かした魅力ある表情づくりに努めます。

- 凡例**
- 骨格の緑
 - 緑の拠点
 - 水辺の拠点
 - 緑の回廊
 - 緑の回廊(さくら)
 - 水辺の回廊
 - 斜面林
 - 緑化推進重点地区
 - 保全配慮地区
 - 緑地協定
 - 農振農用地
 - 街路樹
 - 街路樹整備計画地
 - 地域資源・ランドマーク
 - 学校
 - 湧水



緑のまちづくり

2. 中央地域

□地域の緑の現況

- 中央を横断するように大堀川が流れており、手賀沼につながっています。また、東には大津川が流れており、これらが骨格の緑を形成しています。
- 大堀川の水辺には緑道が整備されており、周辺には農地と屋敷林が点在しています。
- 大津川の周辺には、斜面林と農地が連続しています。
- 柏駅を中心とする市街地は、商業・業務系の施設が集積しており、まとまった緑は見られないことから、緑の積極的な創出が必要となっています。
- かつての地域の暮らしを伝える野馬土手のほか、柏神社、諏訪神社、地主神社、赤木神社、熊野神社、西光院などの社寺の緑が貴重な緑の空間を形成しています。
- 主な公園緑地として、拠点の緑として位置づけられている柏ふるさと公園・北柏ふるさと公園、大堀川防災レクリエーション公園、高田野鳥の森などがあります。

都市公園 1人当たり面積 (H20.3)	3.04㎡	市全体 5.53㎡ (→P29 参照)
都市公園 1人当たり面積 (H31.3)	2.71㎡	市全体 5.90㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H20.3)	4.32㎡	市全体 7.80㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H31.3)	4.11㎡	市全体 8.47㎡ (→P29 参照)

□地域の緑の課題

- 緑の少ない中心市街地における緑の積極的な創出
- 大堀川周辺の緑の保全・活用
- 大堀川と手賀沼の連続性の強化
- 身近な緑の空間の確保とネットワークの形成

□地域の緑の将来像

緑豊かな柏の顔づくり

□地域の緑の取り組み

●市街地における積極的な緑の創出

市街地において、積極的に緑の創出に努めます。

- 道路と一体となった緑の整備や屋上緑化・壁面緑化を進めます。
- 緑化推進重点地区である豊四季台近隣センター周辺地区などの緑のまちづくりを推進します。
- 豊四季団地の建て替えにあわせて、緑豊かで安全な住宅地の街並みづくりへの誘導に努めます。
- 南柏駅・豊四季駅前において、市民などとの協働による緑を活かした魅力ある表情づくりに努めます。
- 柏市役所において、敷地や駐車場の緑化や壁面緑化・屋上緑化を推進します。

●まちの顔にふさわしい柏駅周辺の緑化推進

柏市の玄関となる柏駅と駅周辺において、緑化推進重点地区として魅力ある表情の豊かな緑づくりを進めます。

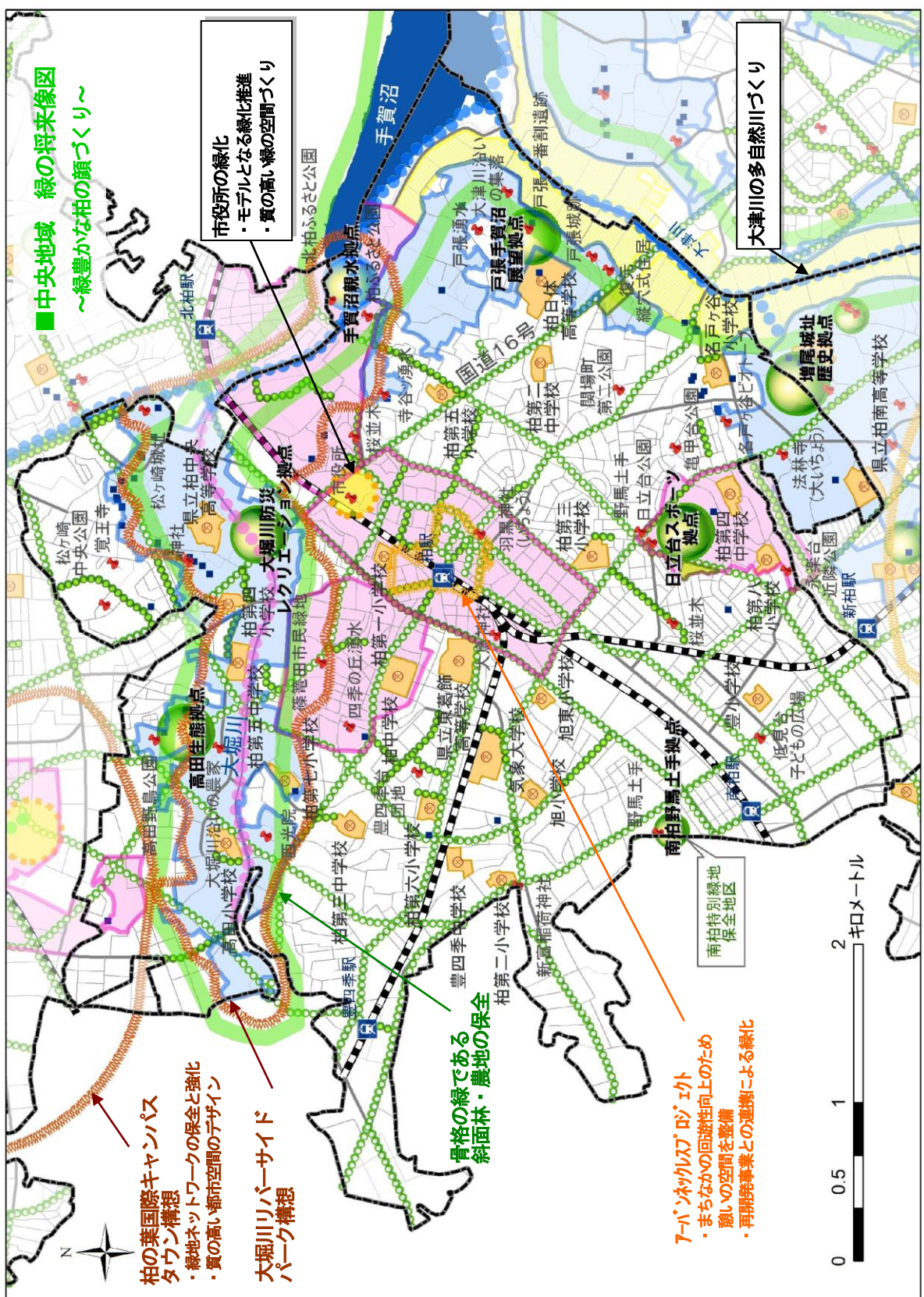
- 柏の顔となる柏駅と駅周辺において、花壇づくりやハンギングバスケットなどによる緑化を進めます。
- 駅周辺の民間施設の屋上緑化・壁面緑化を進めます。
- 市街地再開発事業などにあわせて、公開空地を活用した緑化を進めます。

●地域の身近な緑の保全・活用

保全配慮地区である大堀川・大津川周辺の緑をはじめとして、地域の身近な緑を保全・育成するとともに、活用することによって身近な緑のネットワークづくりに努めます。

- 大堀川と周辺の緑の保全・活用に努めます。
- 大津川の多自然川づくりを進めるほか、周辺の緑の保全と水辺を活かした道づくりに努めます。
- 大堀川防災レクリエーション公園などの拠点の緑づくりを進めます。
- 地域の身近な樹林地の保全と、土地所有者の協力による身近な里山づくりを進めます。
- 野馬土手などの地域の歴史を伝える遺跡、社寺林の保全に努めます。
- 農地の保全・活用に努めます。
- 開智国際大学、気象大学など大規模な敷地を持つ大学、事業所などの緑の保全に努めるとともに、地域の緑としての活用や支援策を検討します。

- 凡例**
- 骨格の緑
 - 緑の拠点
 - 水辺の拠点
 - 緑の回廊
 - 緑の回廊(さくら)
 - 水辺の回廊
 - 斜面林
 - 緑化推進重点地区
 - 保全配慮地区
 - 緑地協定
 - 農振農用地
 - 街路樹
 - 街路樹整備計画地
 - 地域資源・ランドマーク
 - 学校
 - 湧水



緑の地域別構成図

3. 南部地域

□地域の緑の現況

- ・ 東には大津川が流れており、周辺の斜面林や農地などを含めて骨格の緑を形成しています。
- ・ 増尾・藤心・逆井一帯は、雑木林・屋敷林や農地がまとまった区域となっており、大津川の支流などには斜面林が連なっています。
- ・ 西には江戸川水系の上富士川が流れており、その支流などには湧水が見られます。
- ・ 増尾城址総合公園、酒井根下田の森緑地、中原ふれあい防災公園、柏リフレッシュ公園、南部公園、南増尾小鳥の森など、拠点の緑として位置づけられている緑が多くあるほか、小規模な公園や未利用地が多く見られます。
- ・ 住宅地を中心とした市街地の中に、小規模な樹林地や農地が点在していることから、これらの緑を保全・活用していくことが求められます。

都市公園 1人当たり面積 (H20.3)	3.00㎡	市全体 5.53㎡ (→P29 参照)
都市公園 1人当たり面積 (H31.3)	3.60㎡	市全体 5.90㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H20.3)	4.90㎡	市全体 7.80㎡ (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H31.3)	5.50㎡	市全体 8.47㎡ (→P29 参照)

□地域の緑の課題

- 市街地の中に身近な樹林地や農地が分布している特徴の保全・活用
- 拠点的な緑の保全・強化
- 増尾をはじめとする里山の保全・活用
- 住宅地などの市街地の緑の育成

□地域の緑の将来像

特徴的な拠点の緑や点在する身近な緑を
活かし守り育てるまちづくり

□地域の緑の取り組み

●骨格や拠点の緑づくり

地域の特徴である骨格の緑や、民有地として残る拠点の緑について、具体的な保全・活用や育成の方策を検討します。

- ・ 保全配慮地区である大津川周辺の緑の保全に努めます。
- ・ 大津川の多自然川づくりを進めるほか、周辺の緑の保全と水辺を活かした道づくりに努めます。
- ・ 酒井根下田の森・増尾城址総合公園、柏リフレッシュ公園などの拠点の緑づくりを進めます。
- ・ 民有地の拠点の緑づくりに向けた土地所有者・市民などの共通認識をつくる場づくりに努めます。

●身近に点在する緑の保全・活用・再生

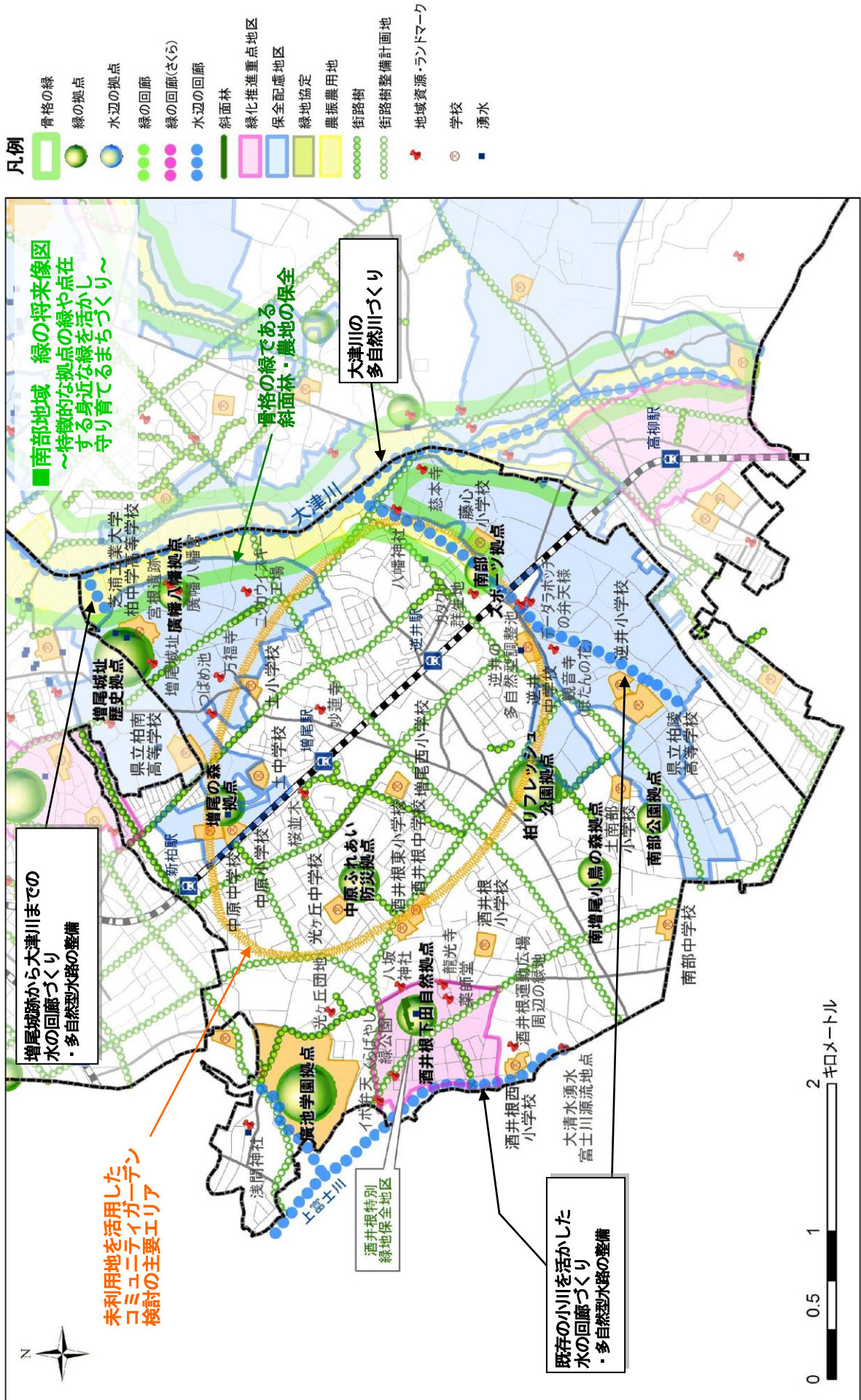
地域の特徴である点在している樹林地、農地などの緑を保全・活用するとともに、未利用地などをオープンスペースとして活用に努めます。

- ・ 樹林地の保全を進めるとともに、土地所有者の協力による身近な里山づくりを進めます。
- ・ 未利用地などを活用した多様なオープンスペースの確保に努めるとともに、公園の再配置を進めます。
- ・ 社寺林の保全に努めます。
- ・ 廣池学園など大規模な敷地を持つ大学、事業所などの緑の保全に努めるとともに、地域の緑としての活用や支援策を検討します。
- ・ 農地の保全・活用に努めます。

●つながりのある緑の街並みづくり

住宅地を中心とした地域において、緑を積極的に創出し、通りと一体となった緑豊かな街並みづくりを進めます。

- ・ 緑化推進重点地区である酒井根下田地区・日立藤心線地区の緑のまちづくりを推進します。
- ・ 道路と一体となった緑豊かな住宅地の街並みづくりへの誘導に努めます。
- ・ 新柏駅・増尾駅・逆井駅において、市民などとの協働による緑を活かした魅力ある表情づくりに努めます。



4. 沼南地域

□地域の緑の現況

- ・ 北には手賀沼・手賀川と農地・斜面林が一体となった広大な緑の空間が広がっています。また、大津川の周辺には農地・斜面林・湧水が一体となって連続しているほか、染井入落・金山落が流れており、これらが骨格の緑を形成しています。
- ・ 台地端に見られる斜面林は、手賀沼沿いから地域全体をふちどるように連続しています。
- ・ 地域の東部などには、斜面林と一体となった谷津田が見られます。
- ・ 大半が市街化調整区域となっており、雑木林・屋敷林や農地がまとまった区域が広がっていますが、樹林地などは、高齢化や後継者不足などによって手入れが行き届かないものが多いため、保全や管理が求められています。
- ・ 大津ヶ丘地区を中心として、高柳駅周辺など計画的な整備による住宅地が形成されており、公園なども整備されています。
- ・ 主な公園緑地として、拠点の緑として位置づけられている手賀の丘公園、ふるさとの森、沼南の森などがあります。

都市公園 1人当たり面積 (H20.3)	11.60 m ²	市全体 5.53 m ² (→P29 参照)
都市公園 1人当たり面積 (H31.3)	11.02 m ²	市全体 5.90 m ² (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H20.3)	13.80 m ²	市全体 7.80 m ² (→P29 参照)
緑のオープンスペース 1人当たり面積 (H31.3)	13.10 m ²	市全体 8.47 m ² (→P29 参照)

□地域の緑の課題

- 斜面林や農地など地域の豊かな緑の保全
- 豊かな緑を活かした、緑と人が共生できる環境の整備
- 大津ヶ丘などの市街地における緑の創出
- 公園など拠点の緑の整備

□地域の緑の将来像

人と緑が共生する里づくり

□地域の緑の取り組み

●地域の特徴となる緑の保全・活用

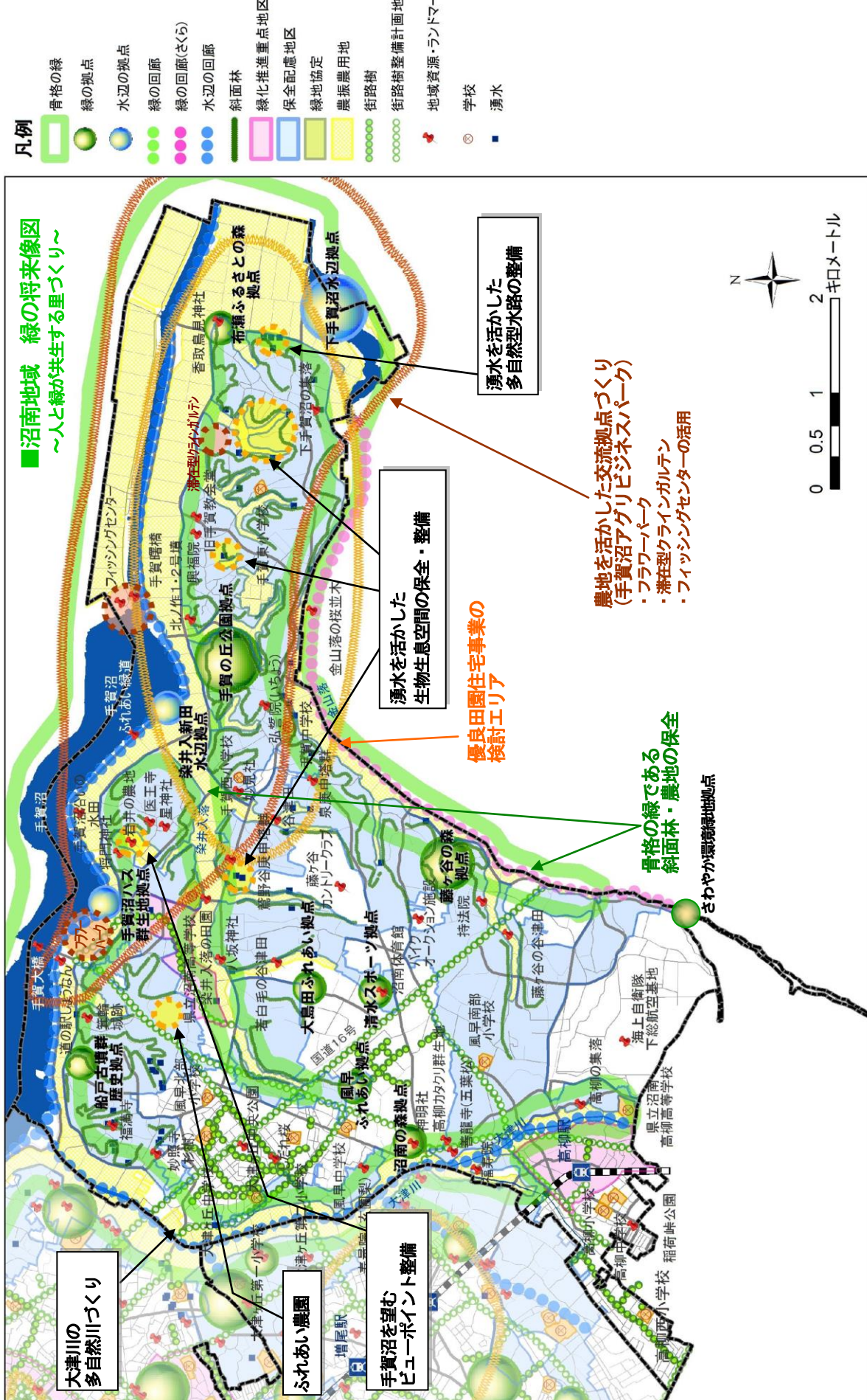
保全配慮地区である手賀沼沿い斜面林をはじめとする、地域の特徴のある緑を保全するとともに、活用します。

- ・ 手賀沼沿い斜面林の保全に努めるほか、放置されている斜面林・平地林など緑の保全や手入れによる整備を進めます。
- ・ 地域を取り囲むように連なっている斜面林の保全に努めます。
- ・ 土地所有者の協力による、身近な里山づくりを進めます。また、民間事業者との連携による、里山づくりを検討します。
- ・ 手賀の丘公園、船戸古墳群などの拠点の緑づくりを進めます。
- ・ 社寺林の保全に努めます。
- ・ 谷津田を含めて農地の保全・活用に努めます。また、農地を積極的に活かした、市民の交流拠点（手賀沼アグリビジネスパーク）づくりを進めます。
- ・ 大津川の多自然川づくりを進めるほか、周辺の緑の保全と水辺を活かした道づくりに努めます。
- ・ 染井入落や金山落の周辺の緑の保全に努めます。

●緑と共生する「街」づくり

緑の中に豊かに住むことができる「街」をつくるよう、緑を活用するとともに、緑の創出に努めます。

- ・ 優良田園住宅の整備を検討します。
- ・ 里山などの緑や水辺、遺跡などに親しめる散策路のネットワークづくりに努めます。
- ・ 二松学舎大学など大規模な敷地を持つ大学、事業所などの緑の保全に努めるとともに、地域の緑としての活用や支援策を検討します。
- ・ 緑豊かな住宅地の街並みづくりへの誘導に努めます。
- ・ 緑化推進重点地区である高柳駅前において、市民などとの協働による、緑を活かした魅力ある表情づくりに努めます。
- ・ 柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合と連携し、地域の貴重な緑地の保全を図りつつ、親水広場や多目的広場などの整備をします。（さわやか環境緑地拠点）



凡例

- 骨格の緑
- 緑の拠点
- 水辺の拠点
- 緑の回廊
- 緑の回廊(さくら)
- 水辺の回廊
- 斜面林
- 緑化推進重点地区
- 保全配慮地区
- 緑地協定
- 農振農用地
- 街路樹
- 街路樹整備計画地
- 地域資源・ランドマーク
- 学校
- 湧水

沼南地域 緑の将来像図
~人と緑が共生する里づくり~

大津川の多自然川づくり

ふれあい農園

手賀沼を望むビューポイント整備

湧水を活かした生物生息空間の保全・整備

優良田園住宅事業の検討エリア

湧水を活かした多自然型水路の整備

農地を活かした交流拠点づくり
(手賀沼アグリビジネスパーク)
・フラワーパーク
・滞在型ライニングガルテン
・フィッシングセンターの活用

骨格の緑である斜面林・農地の保全

さわやか環境緑地拠点

